

シバウラ消防ポンプ

FS500 運転要領



1. 運転準備

- 1) 燃料タンクに自動車用レギュラーガソリンを入れて下さい。
【注意】2サイクルオイルとの混合ガソリンやバイオガソリンは入れないでください。
- 2) エンジンオイル、ギヤオイル、冷却液が入っているか確認して下さい。
- 3) ポンプを設置します。
- 4) 放水弁、ポンプ下部の赤いレバーのcock3カ所(ドレンcock)を閉じて下さい。

2. 運転(始動→吸水→放水)

- 1) 自動吸水スイッチ①(外側リング部)を『自動』の位置にします。(手動で吸水する場合は『手動』の位置に)
- 2) スロットル②を『始動』の位置にします。
- 3) メインスイッチ③を『運転』→『始動』まで回して、エンジンを始動させます。
(リコイル始動の時は『運転』にし、リコイル部のステッカー『始動上の注意』を参考にしてください)
- 4) スロットル②を『吸水』位置まで回してください。自動で吸水します。
(手動で吸水する場合は吸水ボタン①(内側青色ボタン部)を押せばなしにして真空ポンプを作動させ、吸水が完了したら吸水ボタン①を放します)
※吸水完了の確認方法…圧力計が正圧を指し、真空ポンプ排気ホースから水が排出されます。
- 5) 筒先の安全を確認し、放水弁④をゆっくりと開け、スロットル②で必要な圧力に調整します。

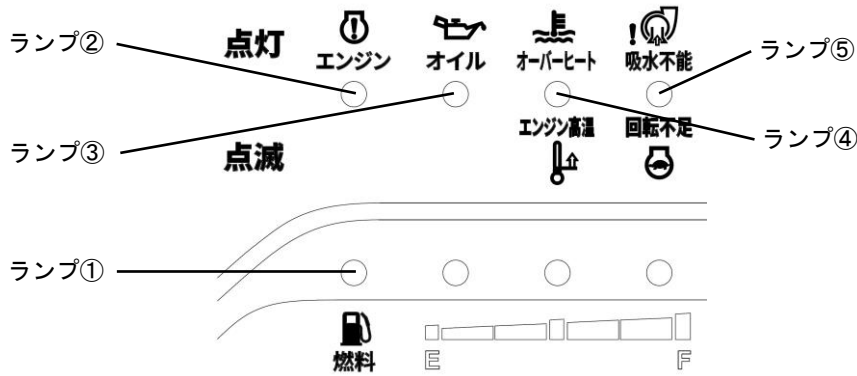
3. 放水の一時停止

- 1) 放水を一時停止する時は、スロットル②を『低圧』にしてから放水弁④を閉じます。
【注意】長時間の締切運転は避け、エンジンを停止してください。

4. 停止・保管

- 1) スロットル②を『低圧』にし、放水弁④を閉じます。
- 2) メインスイッチ③を『停止』にします。
- 3) 各部のcockを開け、排水します。放水弁④は半開としてください。
- 4) 排水後各cock・放水弁を閉め、ポンプカバーキャップをつけて真空試験をしてください。
手順) エンジン始動→真空ポンプ作動(5秒作動)→エンジン停止
 - ・連成計が負圧を指しているか確認してください。
 - ・試験後はポンプ下cockを一旦開き、ポンプ内を大気圧に戻してください。

5. モニタランプ説明



表示	項目	作動	対処
ランプ①	点滅  燃料	燃料タンク内の残量が少なくなると点滅する。	レギュラーガソリンを補給する。
ランプ②	点灯  エンジン	エンジン制御機能に異常が発生した場合に点灯する。(エンジンが自動的に停止する場合があります)	緊急時以外は、一度メインスイッチを『停止』にして再度始動する。再び点灯する場合は、販売店に相談する。
ランプ③	点灯  オイル	エンジンオイルの油圧が低下すると点灯し、エンジンが自動的に停止する。	エンジンオイルレベルを点検し、規定量以下ならエンジンオイルを補充する。
ランプ④	点滅  エンジン高温	エンジンが高温になると点滅し、冷却不足をお知らせする。	冷却不足の原因を直す。
	点灯  オーバーヒート	エンジンが上記の状態よりさらに高温になると点灯し、エンジンが自動的に停止する。	メインスイッチを『停止』にして冷却不足の原因を直し、再始動する。リザーブタンク内の冷却液が規定量以下の場合、補充する。
ランプ⑤	点滅  回転不足	吸水スイッチが『自動』の時、吸水に必要なエンジン回転に達していない場合に点滅してお知らせする。	スロットルを『吸水』の位置に上げる。
	点灯  吸水不能	吸水スイッチが『自動』で吸水できなかった場合に点灯し、エンジンが自動的に停止する。	メインスイッチを『停止』にして吸水できない原因を直し、再始動する。

6. 取扱い注意事項

- 1) 冷態始動時、待機運転する場合にはスロットル②を『低圧』にして2～3分間暖機運転を行ってください。
- 2) 保管中は付属の充電器でバッテリーの補充電を必ずおこなってください。
- 3) 定期的に燃料を交換してください。(1回/6ヶ月)
- 4) 定期的に高圧放水を10分程度してください。(1回/1ヶ月)
※必ず筒先ノズルを使用してください。
- 5) 放水後は排水及び真空試験を必ず行ってください。
- 6) 寒冷時は排水後に凍結防止処理をしてください。
- 7) ポンプはなるべく水平かつ吸水面近くに、枯草等を避けて設置してください。
- 8) 危険防止の為、筒先の状況を確認しながら圧力調整してください。